中退理論と教学 IR データのマッチングによる 中退防止の検証

白鳥成彦（嘉悦大学）

１.本発表の目的と課題

本研究では、アメリカにおける中退研究の中から中退理論を選択し、その理論と現在日本の大学において通常得られている教学 IR データとの紐付けを行うことで、どの程度、中退理論を表現できるデータ群となっているのかを検証する。大学における中退研究はアメリカにおいて歩留まり（Retention）研究としてはじまり、1970 年代以降に中退理論として成立した。本研究ではアメリカで展開されてきた中退理論の中から Spady による大学における中退プロセスモデル（Undergraduate Dropout Process Model）、Tinto による大学出学モデル（Institutional Departure Model）、以上 2 つの中退モデルから変数群を選択し、現在、日本の大学で一般的に取得されている教学 IR データとの紐付けを行う。

２.中退研究における理論

中退に関する研究において中退理論の構築が行われたのは 1960 年代後半以降である。Berger によれば中退研究は在籍・歩留まり（Retention）として研究されており、1960 年代までは歩留まりを意識することはなかったが、1960 年代以降から中退防止、そして中退に結びつく理論の確立へとつながっていったと述べている。1960 年代当初、中退に関連する研究は心理学的アプローチを用いていた。心理学的アプローチでは学生の性格、属性、欠点等、個人の要素と中退、歩留まり、学生損耗（student attrition）の関係を分析しており、心理学を根拠においていたものであった。（Spady 1970）Fig.1 は中退理論の流れの概略をあらわしたものである。

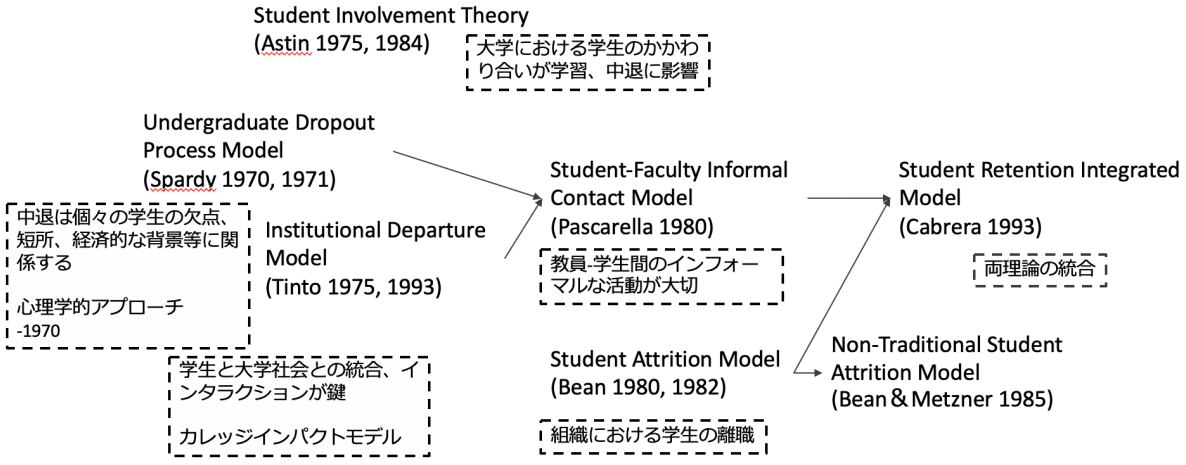


Fig.1：中退理論の流れ

心理学的なアプローチにかわり、学生と大学という組織との関係性に注目した理論が

Spady（1971）からはじまった。彼は中退における最初の理論的モデルとして紹介され、学生と大学の関係が学生の歩留まりに関係するとした。後述する Tinto と同じく Durkheim が提唱した社会（の統合）における自殺の理論（Durkheim 1951）と学生消耗を関係づけた最初のモデルであり、この考えは Tinto のモデルにもつながっている。学生と大学の環境の間のインタラクションによって中退プロセスを説明し､学生と大学(学部、教職員、ピア等）の間のインタラクションは大学に対する学生の統合（integration）のレベルを決定し、在学に影響を与えるという仮説を検証している。

Tinto は Spady の大学組織と学生間のインタラクションを基礎において大学出学モデル（Institutional Departure Model）: 学生統合モデル（Student integration model）を提案した。Van Gennep（1960）の社会人類学的な仕事（部族社会における通過儀式：separation、transition、incorporation）を学生の大学社会への統合プロセスに適応している。初年次学生の移行では分離（separation）において家族や高校等、他の価値観を持っている以前に所属したコミュニティからの分離が必要であることを指摘している。新しい価値観を獲得する前に、彼らの昔のコミュニティからの脱社会化（disassociating）が起こるが、その段階を移行（transition）と呼んでいる。その後、統合のプロセスが始まる。

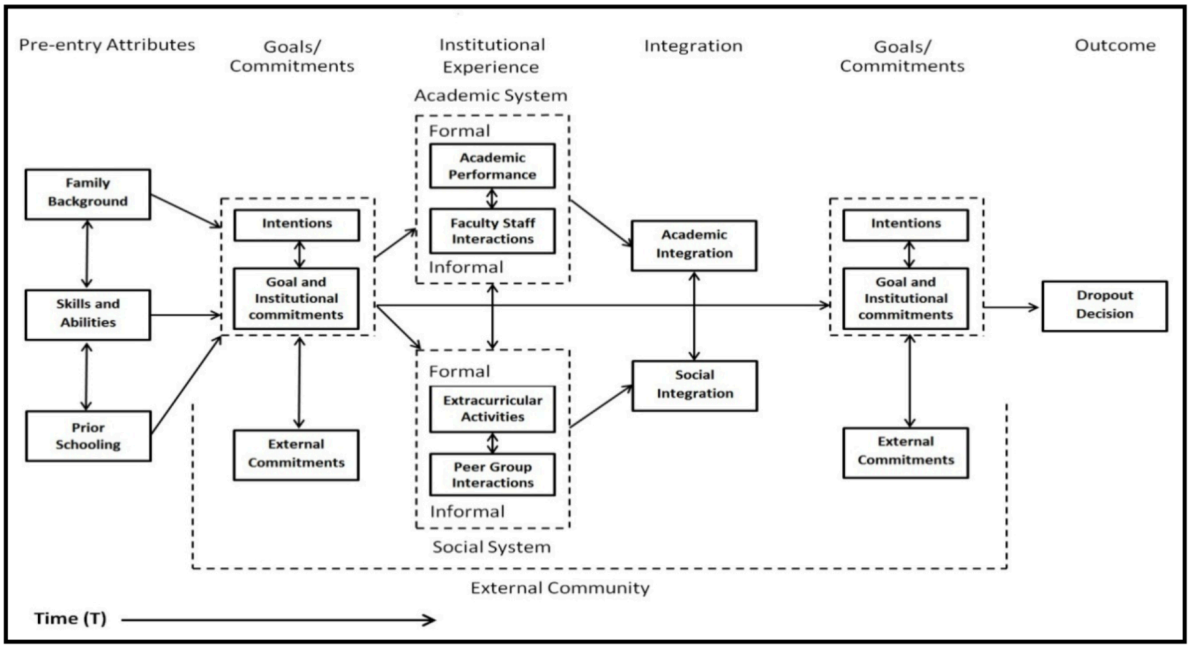


Fig.2:Tinto における Institutional Departure Model

Fig.2 は Tinto が提唱したモデルだが、大学はアカデミックとソーシャルの 2 つのシステムで構築されているとしており、学生の経験はこの 2 つのシステムに統合される。大学への統合は成績と知的な発展によって測ることができ、一方で社会への統合は学生のピアや教職員とのインタラクションによって測ることができる。学生の入学前属性（家庭の背景や能力、要素等）は大学での最初のゴールや達成を形作り、そのゴールによって大学・社会への統合の経験は影響を受ける。そして変化したゴールや達成によって在学・退学に

影響を与える。Fig.2 から抜き出される中退に関連し、取得できそうな変数群をあげると、1. Pre-entry Attributes、2. Goals/Commitments、3. Academic System、4. Social System、5. Integration をあげることができる。

３.教学 IR データとのマッチング

教学 IR データは入学前に取得できるデータと入学後に取得できるデータに大きく分かれる。Table1 はアセスメントポリシーを策定する際に、入学前、在学中、卒業時と取得できる変数をまとめた表である。

Table1：アセスメントの仕組み

	入学前 AP に沿っているか	在学中 CP に沿っているか	卒業時 DP に沿っているか
機関レベル（大学レベル）	・各種入学試験 ・面接・志願理由書 ・資格取得者数 ・入学時アンケート調査	・GPA ・修得単位数 ・学修行動調査 ・資格取得者数 ・課外活動状況 ・退学率	・卒業時満足度調査 ・卒業生インタビュー調査 ・学位授与数 ・卒業率 ・就職率 ・資格取得者数
教育課程レベル（学部レベル）	・各種入学試験 ・面接、志願理由書 ・入学前教育結果 ・入学時アンケート調査	・GPA ・成績分布状況 ・修得単位数 ・学修行動調査 ・資格取得者数 ・課外活動状況 ・退学率	・卒業時満足度調査 ・卒業生インタビュー調査 ・卒業研究 ・通算 GPA
授業科目レベル		・シラバス ・成績評価 ・成績分布状況 ・授業評価アンケート	

Table1 における教学 IR データと２章であげた理論からの変数群との当てはまり具合をみていくが、表の中におけるデータ以外にも学籍情報や健康アンケート等、アセスメント時には利用しないが学生におけるデータも取得している。

1．Pre-Entry 群

Pre-Entry 群の変数は下記の調査データと学籍情報によって概ね取得できている。

・各種入学試験
・面接・志願理由書
・資格取得者数
・入学前教育結果
・入学時アンケート調査

2．Goals/Commitments 群

Goals/Commitments 群の変数は大学関連（Academic）と学外関連（Social）の軸、事前、事後の軸で分類される。大学関連の変数は数値的に履修単位数、成績、授業評価アンケート、学修行動調査、学生ポートフォリオによる記述から取得できるが、学外関連の変数は取得できていない。

3．Academic System

Academic System 群は学業のパフォーマンスと学内スタッフとのインタラクションで構成される。学業のパフォーマンスは成績データ（GPA、単位数）によって取得でき、学内スタッフとのインタラクションは学修行動調査の中に設問が入っている。

4．Social System

Social System 群は学外・正課外の活動と友人や学外関係者とのインタラクションで構成される。学外・正課外の活動はポートフォリオ内に課外活動状況について記述してもらっている。学外関係者とのインタラクション部分はデータとして取得できていない。

5．Integration

Integration 群は大学の組織、社会の組織との統合がどの程度できているかを測る。大学との統合部分は Tinto も言っている通り GPA 等を用いて測ることで可能だが、社会との統合は難しい。

４まとめ

本研究では、アメリカにおける中退研究の中から中退理論を選択し、その理論と大学において通常得られている教学 IR データとの紐付けを行うことで、どの程度、中退理論を表現できるデータ群となっているのかを検証した。

【参考文献】

Berger, J. B., & Braxton, J. M. (1998). Revising Tinto's interactionalist theory of student departure through theory elaboration: Examining the role of organizational attributes in the persistence process. Research in higher education, 39(2), 103–119.

Spady, W. G. (1970). Dropouts from higher education: An interdisciplinary review and synthesis. Interchange, 1(1), 64–85.

Spady, W. G. (1971). Dropouts from higher education: Toward an empirical model. Interchange, 2(3), 38–62.

Durkheim, E. (1951). Suicide (J. A. Spaulding & G. Simpson, Trans.). Glencoe: The Free Press.

Tinto, V. (1975). Dropout from higher education: A theoretical synthesis of recent research. Review of educational research.

Van Gennep, A. (1960). The Rites of Passage (M. Vizedine & G. Caffee, Trans.). Chicago: University of Chicago Press.